

# だんないの道

## 第17号

2015年3月31日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町  
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ	.....P1	企画を通して	.....P2
バリアフリーマップ	.....P3	当事者職員・小里和也さんに出会って！！	.....P5
リレートーク	.....P6	コラム ヨリの雑記帳	.....P7
活動報告	.....P8	だんないフィルムアーカイブ (DFA) のデータ公開に先立って	.....P10

### 代表あいさつ

今年度も「だんないの道」を読んでいただき、ありがとうございます。前月号から早4ヶ月がたとうとしています。また、気がつけば今年初めての発行ということに、時がたつ速さを感じます。まあ、この言い方は美しい言い方ですが、実際は日々の活動に追われ、広報発行に割く時間を作れなかっただけかもしれません。それでも、今年度発行回数は目標の5回を達成したことに、少し安堵感を覚えます。ただ、ご覧いただいているときは4月でしょうが…。

ところで、今年は「だんない」を設立して5年目です。振り返ると、多くの出会いがありました。考え方が似ている人にも、逆に全く考え方が合わない人にも出会うことができました。けんかをしたり、仲直りをしたりする中で、思いを共有することもあれば、疎遠になったこともありました。ただ、それは私にとって、どれも大切な出会いだったなと感慨深く振り返っています。

今年もだんないシンポジウムを開催することが決定しました。5月16日(土)午後からの予定をしております。基調講演して下さる方は、京都にある「日本自立生活センター(JCIL)」の代表をされている矢吹文敏さんです。矢吹さんは、骨形成不全症という障害があり70才を迎えられています。京都では、今年4月から「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」が全面施行されます。全国では珍しい女性障害者への配慮という複合差別の問題に言及しています。滋賀でも条例づくりへの動きが再び高まりつつある中で、矢吹さんのお話は今後の私たちの活動展開にとって大きなロールモデルとなるはずです。ぜひ、皆様とともに拝聴して考えていきたいと思えます。お待ちしております。

私事ですが、2月下旬にインフルエンザにかかりました。39度を超える高熱が出ました。一週間ほど寝込んでしまい、意識がもうろうとしたほどです。本当に死ぬかと思いました。その後、復活しましたが病気にかかるたびに重度化していくのを実感しています。特に実感するのは、口の動きです。言語障害がだんだんきつくなっているのです。講演活動や会議のなかで発言するときに、より強く感じます。切なく想う一方で、だからこそ伝えていかなければならないという使命感に奮い立たされながら、重度化する自分と向き合っています。開き直ることができて、そんな自分に誇りを持てるようになりたいと願います。その心境になるまで、もう少し自分と向き合いたいです。

おかげさまで、大きなアクシデントもなく、1年を過ごすことができました。5年目を迎えますが、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。今やるべきことは何なのか、常に意識して活動展開してまいります。

美濃部 裕道

## 企画を通して

小里 和也

だんないの様々な企画を一年間通して。その中でも、ステッカー貼り、ILP、地域交流（だんない祭り）が大きな企画となりました。

ステッカー貼りでは、以前にも紹介した「店舗の利用に困難のある方へお手伝いをしますステッカー」を店に貼ってもらう活動をしています。今までに、木之本、高月、彦根と行った地域に配布しました。

そして、貼ってもらえたお店等を踏まえながら、車椅子ユーザー目線からのお店や公共施設などのバリアフリーマップを作成していきたいです。

2つめのILPでは、だんない以外の当事者はありませんでしたが、身内だけで2か月に1回のペースで開催しました。内容は、何処かへ行ったり、買い物、料理等をしました。

そして来年度は、内容をパワーアップしたくさんの当事者を巻き込んで行きたいです。

9月には特別ILPを企画中です

そして、3つめのだんない祭りでは、最初は何人参加してもらえるか不安でしたが、お年寄りから若い人達の約60の方が参加してもらえて嬉しかったです。

だんない祭りは、地域交流といった名のもとで開催したのでたくさんの人と交流できました、だんないの活動を知ってもらい良かったと思います。

そして、だんない祭りの他にも、もう一つの企画として夏休みに地域の子ども達を呼び映画祭などの企画をしていきたいです。

これからの企画に期待してください。

---

# バリアフリーマップ

西堀 敬

高齢者や身体障害者等の自立と積極的な社会参加を促すため、建物のバリアフリー化（ハートビル法）、移動の利便性及び安全性向上を促進する交通面のバリアフリー化（交通バリアフリー法）を目的とした法が整備され、さらに高齢者・障害者等の円滑な移動及び建築物等の施設の円滑な利用の確保に関する施策を総合的に推進し、経路の一体的な整備を図るため、これらを統合した「高齢者、身体障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー新法）が施行された。こうしたバリアフリーに向けた法整備を受け、ユニバーサルデザインに基づく建物、移動手段等の新築、改築、整備が進みだしている。

「C I L だんない」が目指すところの社会モデルの構築を進めるうえでも、環境のバリアフリーは優先課題の一つである。しかし、平成6年に施工されたハートビル法施工から早20年を越えたが、地元滋賀県長浜市木之本周辺だけでなく、各地のバリアフリーは実施速度は遅く、障害者を取り巻く環境整備はまだまだ取り残されているという感を禁じ得ない。

「C I L だんない」ではバリアフリーを目指す運動として、店舗に「店舗の利用に困難のある方へ お手伝いをします」というステッカーを入口周辺に張らせてもらい、障害者がためらいなく店を利用できる環境整備を作るべく活動を行っている。しかし、多くの店で協力してもらえる一方、断られる店も少なくない。店側も入ってきた車いすの客が困っていた場合、何の手助けしないというのは今の日本においては考えられない？と思うが、当たり前のことを示すだけのステッカーでも警戒感からか、本当は嫌なのかわからないが簡単なことではない。ましてや段差がある、入り口が狭い、通路に商品等が積んであるなどの店は多く、そうではない事例がない店を探す方が難しい現状がある。

本来は障害者が特定の場所しか行けない、利用できないというのはおかしな話であると考えべきではあるが、こうした現状を少しでも障害者にとって利便性の良いものとするために、近年、行政・観光施設を中心にバリアフリーマップが各地で作成されて来ている。繰り返すがバリアフリーマップが整備されているのがベストなのではなく、バリアフリーマップがなくても障害者が社会生活を健常者と変わることなく送れる社会環境こそが真の意味でもバリアフリーな社会である。

「C I L だんない」ではこうした現状を認識しつつ、それでも障害者の行動がより広がるためには、バリアフリーマップが今しばらくの役割を持つものだと考えている。しかし、実際、障害者に配慮されて作られたはずのバリアフリーマップを見てみると様々な問題点が見えてくる。

一つは多くのバリアフリーマップが当事者である障害者の視点がどれだけ入れられて

いるだろうかという点である。ピクト（ピクトグラムー「絵文字」何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号。 など）に示された種類対応の設備に行ってみたところ、実際には使えない設備もあった。車いすが転回出来ない。ドアを開けることが出来ない。ボタン位置が遠い等々。その現実と示されたピクトとを比べてみると、障害者が利用することは最低限可能であるという作成者の自己本位の評価に基づくものがあるのではないかと疑いたくなるものが少なからずある。

また、どの障害にも対応したことを誇示するがごとく、ピクト表示が20も30も並びかえて使いづらさを感じさせるものが多くあった。ピクトは確かに一見して見やすい効果はあるが、障害の多様性に対応するには、先に上げたピクト表示では表しきれない実態を障害者自身が判断できるデータが必要とされるのではないか。

バリアフリーマップは現状において、障害者の活動を活発化し、作られた障害をなくして行く役割を少しでも担うことが出来る。そのためにもバリアフリーマップを必要としているのは健常者ではなく障害者であるという視点は何よりも大切にされなければならない。

こうした問題点を踏まえ「C I L だんない」ではまず地元の長浜市木之本町の施設、店舗について何か所か取り上げ、障害者特に車いす使用者の視点からバリアフリーマップの作成を開始したい。その中ではデータはもちろんであるが、車いす使用者にとっての使いにくさを取り上げ、単に数字だけではない感覚を大切にしていきたい。

また、ユニバーサルデザインに基づいた配慮の行き届いた施設であっても、素晴らしいと認めるだけでなく、さらなる使いやすさを追究することによって、もっと障害者が生きやすい社会を目指していきたい。

車いすの当事者が実際に施設に行き、できるだけ体験することは言うことはやさしいが、時間がかかることである。しかし、そうした当事者の関わりを大切にしながら、バリアフリーマップを目指していきたい。

---

## 当事者職員・小里和也さんに出会って！！

伊戸 昇平

昨年の4月にだんないに入り僕は、小里和也さんに出会えた。僕にとってはある意味再会の時であった。なぜなら、学生の時に電動車椅子サッカーという競技を通して出会いがあったからである。今までは友達の関係だったけれど、だんないに入社し、当事者とヘルパーと関係に大きく変化があった。

小里さんとの出会いは僕にとって大きな変化だった。それは、新たな趣味を見つけられたことである、その趣味とは、「NMB48」というアイドルグループに出会えたこと。その時のことは鮮明に覚えている。初めての出会いの場所が、なんとホームグラウンドの難波の劇場公演だった。アイドルのコンサートは一度行ったことがあるが、見にくかったのを覚えている。しかし、NMB48はファンとの交流を主においているだけあって、もの凄く近くで見られた。その時「会いに行けるアイドル」とはこのことかとまざまざと見せつけられた感じがする。その後、その劇場公演に感銘を受け、どっぴりとハマリ込んだ。

(AKBグループにはミックスと呼ばれるファンのかけ声があるのだが、すべて覚え込む)

ヘルパーとしての経験もつき、大きなライブへ同行する機会が訪れた。大阪城ホールでの大型ライブだった。そこでは、すでに覚えていた「ミックス(かけ声)」を大声で叫びまくっていた自分を覚えている。以前に行ったライブでは会場の空気は変わらなかったがNMBのライブは会場のボルテージが一気に沸いたのである。(曲による)しかし、最も特筆すべきはメンバーの会話術である。それは、どういう意味かと言うと「イジる側」「イジられる側」がバランスよくチームにしていることである。さすが「関西魂」といえる。お笑いに関しては芸人顔負けのパワーがあった。そして、メンバーすら知らないサプライズがあることがNMB48が人気をさらう理由の一つかも知れない。そして、もう一つは楽曲の歌詞の中身なのだろう。初めて聴いた曲もすべてが歌詞に意味を感じるものだった。その中でも、僕は、「僕らのユリイカ」「結晶」などがとても感情移入がしやすかった。

最後に、AKBグループは今、そのCDの売り方などが問題視されているが、それは、知名度やファンの少いアイドルグループの嘆きに聞こえてしまう。なぜならば、AKBグループのメンバーはとてつもない努力も挫折も味わい、環境という大きな変化に耐えながら生存競争を戦い抜いていると思うからである。しかし、それは決して目の前に出ることは無く特典として付いてくるDVDにしか収録されない。そんな現実を僕たちファンは知っているからこそ真剣に長く応援ができるのだろう。これからもAKBグループのメンバーに頑張ってもらいたいと思うしアイドル界の牽引役として引っ張って行ってほしいと思う。

ちなみに、僕の推しメンは、「谷川愛梨」「加藤夕夏」「黒川葉月」の三人です。

---

## リレートーク

〇・Hさん

「あんたは足が悪いから、勉強でも何でも健常者の2倍頑張れ」

「あんたが努力・工夫すればいろんなことが出来るようになるから、もっと努力しなさい」

私は幼いころから、特に祖母・曾祖母たちにこう言われてきました。だから私自身、「もっと努力して社会に対応して行かなければいけないな」と思っていました。けれど、小学校の高学年ぐらいになると、時々「なんで私が頑張らなあかんのや！」と思ったり、「こんなふうに産まれてきたくなかった」と親にあたったりしていました。

そして、このころから祖母たちが、私に幼いころから言ってきた言葉に違和感を持ち始めました。

中学生の時ぐらいから、「自分は外出する時、車椅子の積み下ろしとかで親に迷惑かかるな」と考えるようになり、でかけることが後ろめたく感じるようになりました。

また、お母さんに、「すぐ帰ってくるから待ってて」とか「降りんと車中で待ってて」と言われることが増え、その度に「まあ、足悪いししゃあないな」と諦めていました。

でも、だんないに出会って、障害や社会に対する私の考え方が変わりました。

最初にだんないに行った時、美濃部さんから「医学モデルと社会モデル」についてのお話を聞きました。私は、このお話を聞いたことがとても印象に残っています。

美濃部さんのお話を聞いて、自分が何に違和感を感じていたのか、はっきりとわかりました。それは、「医学モデル」が関係していました。つまり、祖母たちは医学モデルの考え方で「障害があるのは、あなたの問題だ」と考えているから、私に「努力しろ」ということを言い続けているのだと気づきました。

そして、だんないの考える「社会モデル」の考え方は「障害者が味わう社会的不利は社会の問題だ」とする考え方で、私はこの考えに対して、「なるほど。確かに社会にもっとスロープやエレベーターが増えれば、障害者の行動の幅が広がるな」と思いました。

そのためには、もっと障害者の存在を社会に知らせる必要があると思います。そうすることで、エレベーターなどの設備が増えるだけでなく、ヘルパーも増えるのではないかと思います。

だんないと出会って、いろんな話を聞いて「私の考えや意見をいろんな人に聞いてもらいたい。障害者もあたりまえに外出したり、好きなことができる社会にしたい」と思うようになりました。将来は、ヘルパーも使いながら一人暮らしをしたいです。外にどんどん出て行きたいです。だんないに出会えて、よかったです。



## コラム

### ヨリの雑記帳（16）

先日、ちょっとしたご縁があって母校に帰ることになった。私としては「ちょっとした暇つぶし」のつもりで母校に立ち寄ったつもりであったが、自分なりに深く思うことがあったのでこの紙面に書いておきたい。

私が大学に行ったのは、まだ障害者が大学に入学することが珍しかった時代の最後期であったと思う。先輩方や後輩達と共に、よりバリアフリーな大学を目指して活動していた自分を思い出す。

今回、改めて大学を訪問してびっくりした点がひとつある。それは、春の学園祭用の仮設舞台に大きなスロープがついていたということである。このことには私自身とってもびっくりした。なぜなら、私が在学中に新築された3階建ての部室棟にはエレベーターがついてなかった。それも、たしか2000年代に入ってからのものである。当時の学校側は「学生の助け合いの精神を育てるのが、課外活動の本分なので、あえてエレベーターをつけなかった。」という主張をしていた。その発想は、その後も続いていた。たとえば、学生食堂の入り口のドアを引き戸化改造した折にもあえて自動ドア化しなかったなどがある。もちろん今では部室棟のエレベーターも学生食堂の自動ドアも設置されている。このそれぞれの再改築には多くの人の願いと活動と余分な費用を要したことはいうまでもないことだろう。

このように、私が在学中は主要な建物のバリアフリー化や障害者理解を訴えかける活動が主であった。そのような状況なので「仮設」の舞台のバリアフリー化などは、活動の主眼に入れることが出来ない状況であった。もちろん当時からも多くの障害学生が同じキャンパス内で学び、課外活動を行っていた。私自身も先輩達から受け継いだ課題を活動の中心においていた。仲間達とその課題が達成された時は大いに喜び、酒を酌み交わしたことを昨日のように覚えている。

その後、私は大学とだんだん疎遠になり、現在に至っている。今回、仮設舞台にスロープがついたことは遅々として進まない母校のバリアフリー化の実情を知るからこそ、大変喜ぶという結果になった。私の中ではこれまでの色んな活動が想起されることとなった。

障害当事者が社会を良くするために活動し、実際に社会が変わっていくまでには相当時間を要することがある。時にはその重圧に押し潰されてしまいそうな時もある。だが、今回の件で、時間をかければ必ず変わっていくということを再確認することが出来た。活動として諦めず、時間をかけて活動を進めていくことが本当に大事だと感じる。改めてひとりひとりの当事者のパワーをどのようにして結集していくことが出来るのかを共に考えていきたい今日この頃である。

（よりたか つねのぶ）

## 活動報告

日付	内容	参加者
12月1日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
12月2日	だんない研究発表会	
12月4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
12月7日	ピアカウンセリング委員会	美濃部 小里
12月9日	ステッカー貼り	
12月11日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 訪問看護師 研修	市川
12月12日	だんない企画会議	
12月13日~14日	DP   政策討論集会	頼尊
12月14日	北びわこ活性化フォーラム	小里
12月15日	JIL 全国セミナー in 品川	頼尊
12月17日	さざなみ職員研修	
12月18日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
12月24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会	頼尊
12月25日	湖北地域障害者交流会	
1月13日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 発達しょうがい者支援部会	頼尊
1月14日	びわ北小学校 講演	美濃部
1月14日	ピアカウンセリング委員会	美濃部・小里
1月15日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
1月17日	だんない企画会議	
1月18日	北部地域・障害者ネットワーク 会議	美濃部 頼尊 小里
1月23日	だんない新年会	
1月27日	湖水の会 講演	美濃部 頼尊
1月28日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
1月30日	第3回 新琵琶湖博物館創造ユニバーサルデザイン評価会議	美濃部 頼尊



1月31日	インクルデータベース学習会 in 豊中	頼尊
2月1日	バクバクの会 いのちの学習会 in 難波	頼尊
2月4日	日本と原発 in 大阪	頼尊
2月5日	長浜東中学校 講演	美濃部
2月9日	長浜市地域福祉活動計画推進委員会	美濃部
2月10日	タウンホーム講演	美濃部
2月11日	北部地域・障害者ネットワーク 学習会	
2月14日	外島保養院学習会 in あべの区民ホール	頼尊
2月15日	2月のインクルDB定例会	頼尊
2月15日	だんないピアカウンセリング	美濃部、小里
2月17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
2月18日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部
2月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	市川
2月20日	だんないILP	
2月23日	『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会 講演	頼尊
3月5日	平成26年度 権利擁護フォーラム in 草津	美濃部、小里
3月5日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 湖北医師会（湖北小児神経懇話会）研修	市川
3月11日	ある精肉店のはなし in 大阪	頼尊
3月13日	ピアカウンセリング委員会 懇親会	美濃部、小里
3月13~15日	ピアカン集中講座 in 舞洲	頼尊
3月14日	車座わーくショップ「あきらめないで」 in 湖西	美濃部、小里
3月15日	車座わーくショップ「あきらめないで」 in 湖東	美濃部、小里
3月17日	指定障害福祉サービス集団指導 in 栗東	高橋
3月19日	車座わーくショップ「あきらめないで」 in 湖北	美濃部、市川、 頼尊、小里
3月20日	ケース会議	頼尊
3月22日	だんないピアカウンセリング	美濃部、小里
3月23日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
3月23日	第2回成年後見運営委員会	美濃部
3月24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 全体会議	美濃部
3月28日	第29回「国際障害者年」連続シンポジウム	美濃部、頼尊

# だんないフィルムアーカイブ（DFA）のデータ公開に先立って

NPO 法人 CIL だんない事務局長 頼尊恒信

## 1. 目録の公開に至った経緯

DFA の始まりは、個人的な事情において収集してきた障害者に関わる映像アーカイブスにある。その後、ご縁があり、人権関係の 16mm フィルムを複数タイトル入手することとなった。それと平行して障害者関係の映画を収集、またはレンタルし、データを収集してきた。

そのような背景から、CIL だんないでの収集は、障害者関連の映像を中心として、人権問題や広く社会問題全般、東洋医学や在来療法などの医学的な映像作品までを対象としている。しかし、所集範囲が多岐・多数にわたるため、CIL だんない内の保管・整理の為に備忘録的な内容として、目録化する必要性が生じてきた。

そのような一連の作業の中で、さらに目録内容を充実すべく収集活動を進めていくために、障害者関連の映像目録やデータベースも複数参照にした。その中で、どの映像目録やデータベースも、情報が少なく十分に活用できうる内容とは言えるものではなかった。特に東洋医学や在来療法などの医学的な映像作品はレンタル品が少なく、リストアップされているものもなかった。また、CIL 等の障害者運動団体が残している映像記録等の多くは、多くはプライベート版として流通し、公のものになっていないという現状がある。このような事情もあり収集数が 400 タイトルを超えた辺りから、CIL だんないが収集してきた目録を公開し、多くの人に役立てていただきたいという思いを私たちの中で強く持つようになった。

しかしながら、予算等の事情もあり、一度に多くの映像資料を調査・購入することはできない現状もある。そのような理由で、私たち自身が存在を把握している障害者関連の映像資料の量から比べると、目録化出来たものは、ほんの氷山の一角にすぎない。とくに、大手レンタルショップでは取り扱いがないドキュメンタリー作品等は、収集予算等の関係上、リスト化が難航している。また、データベース化に際して、細心の注意は払っているものの、表記の不備など不完全なデータベースもある。

また、収集活動がある一定の段階まで目処が立った訳ではなく、現在も鋭意収集中という状態である。そのため、本目録ではこれまで受け入れ、あるいは調査終了順に目録化している。なぜなら、公開の為に別な順序で目録化すると、追記等の作業に支障が出てくるという問題があるからである。

作業途中とはいえ、このように課題が山積状態の目録であるが、目録をより充実させるためには、今までの収集で得た情報を CIL だんないの中に留めておくだけでなく、関心のある方と情報の共有することが必要と考え、収集してきた目録を公開することとした。

是非、忌憚のないご意見、お要望と共に多くの情報を頂ければ幸いです。

## 2. データ収集・公開の基準と凡例

- 本データベースは、NPO 法人 CIL だんないが所有するフィルム等のメディア目録ではない。つまり、一般的な大手レンタルショップ等に在庫がある物に関しては、購入の対象とせず、実物をレンタルして内容の調査を行った。
- レンタルされているもの以外のタイトルについては現物購入等を行っている。特に 16 mmフィルムやビデオテープについては、現物保存・管理している。だが、ライブラリー価格での購入は行っていないため、現物の貸し出し・公開は行う予定はない。
- 現時点では目録番号は受け入れ順としている。
- 目録は、同一タイトルで、メディア原盤が複数にわたっているものについては、メディア原盤ごとに1タイトルとした。また、同一のメディア原盤に、複数話にわたって所集されているものについては、メディア原盤ごとにタイトリングし、収録話を別項で補った。ただし、16 mmフィルムについては、1タイトルが複数巻にわたる場合、メディア原盤ごとのタイトリングはせず、1タイトルで収録した。
- 本来は、CIL だんないの備忘録的な存在であったという目録の性質上、元データには、CIL だんないのプライベート DVD などがリストアップされていることもあり、Web 上での公開に先立って、その存在が公開できないものに関してはリストから削除し、元データと番号等を同期させるために、公開版のデータベースでは、データ番号を欠番として取り扱った。
- また、本データベースは、網羅的収集を目指しているものであり、現時点では、諸般の事情で収録タイトルに偏りがある。
- 収録タイトルは、特定の思想性を帯びないように心がけているつもりである。その故に、収録タイトルの内容について、CIL だんないが推奨しているものではない。
- 本データベース（目録等）の著作権は、NPO 法人 CIL だんないにある。二次的使用に関しては、CIL だんないにご連絡いただきたい。



NPO 法人CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : [www.ab.auone-net.jp/~dannai](http://www.ab.auone-net.jp/~dannai)

FAX : 0749-50-3961

E-mail : [dannai@ae.auone-net.jp](mailto:dannai@ae.auone-net.jp)

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人CIL だんない